

学園だより

令和元年6月13日 発行

中央区立宇佐美学園

静岡県伊東市宇佐美545番地



毒ガミの花

味方

園長 小久保 秀雄

海岸清掃、海の水泳、プール開きと、宇佐美学園でもいよいよ夏の始まりを感じさせる頃となりました。

さて、去る5月25日には学校公開・道徳授業地区公開講座を行い、講師にTVリポーターの阿部祐二さんをお迎えしました。阿部さんは名台詞「事件です。」から始まるレポートが有名で、ご自身は俳優として活躍された頃があったり、お子さんの桃子さんがミス・ユニバース・ジャパンに選出されたりと、話題も多い方です。今回は、そうした経歴をもつ阿部さんに、ご自身の経歴や子育てについてお話を伺いました。

俳優であった阿部さんがTVリポーターをされる転機となったのは、大学生の頃、記者になりたいと考えていたことだそうです。記者という夢をもっていたことが、全く同じではなくても、自分を活かせる仕事へとつながり、現在のご活躍へとつながっていったことが素晴らしいと思いました。

また、子育て中には、お忙しくてなかなか一緒にいられないことも多かったそうですが、桃子さんが友人関係などで悩んでいたときにも、「お父さんは、いつでも味方だから。」と伝えていたそうです。そのことがどのように桃子さんに影響したかは、ご本人に伺わなければわかりませんが、この

「味方」という言葉が、心にとっても印象深く残りました。

子どもたちが成長していく段階でトラブルが全く起きないということはありません。むしろ、トラブルから人間関係を学び、最終的には自分たちの力で解決していけるようになることを目指していくことが、社会人への成長でしょう。その過程の中で、どんな状況でも「自分には味方がいる」と思えることほど心強いことはないのではないのでしょうか。

10軒のご家庭があれば10通りの子育てが、100軒のご家庭があれば100通りの子育てがあると思えますが、それぞれ導き方は違っても、「味方」でありたいという気持ちはどのご家庭にも通じることだと思います。ただ、この阿部さんの言う「味方」というのは、いつでも親が乗り出して子どもの問題を解決してしまおうというのとはちょっと違うことだと思います。状況をしっかりと把握して見守りながら、心の支えになる。時にはよき聞き手になり、時には自身の経験談やアドバイスを、押しつけることなく伝える。そんな姿かもしれません。短い時間のご講演でしたが、改めて子育てについて考えるよい時間を過ごすことができました。